

八戸・光星学院

フィリピンに大学開設 19年めど、IT人材育成

八戸学院大(八戸市)の大谷真樹学長は27日までに本紙取材に応じ、2019年をめどに、フィリピンにIT(情報技術)を学ぶ現地学生を対象とした四年制大学を開設する計画を明らかにした。日本ではIT系の技術者不足が懸念されており、海外人材の育成を本格化させる。

八戸学院大を運営する学校法人光星学院は来春、フィリピンの教育財団と共同運営する中高一貫の「八戸学院カール高等学校」を現地に開設する。卒業生らを八戸市の同大短大が受け入れ、日本で働く介護人材を育成する。

大谷学長によると、大学開設は高校に続く回国での事業展開で、カール高校を共同運営する現地の教育財団の短大を四年制IT系

大学に改組し共同運営。日本での就労が可能な資格を取得してもらう。

併せて光星学院は、現地の高校・大学を卒業した外国人が日本にスムーズに定着できるよう、国内企業や法人とのマッチングを図る。「八戸学院グローバルクラブ」を来春設立。同市や周辺の会員企業・法人と日本で働くことを望む学生ら外

国人の橋渡しをする。会員には奨学金拠出など外国人学生の育英制度に協力してもらうほか、学生や技術者が働きやすい職場とするため、日本人社員向けの英語講座なども開催する。

同学長は「クラブ設立で、企業側は優秀な外国人人材の安定的確保、学生らにはキャリア形成や日本での就職などのメリットがある」

と説明。海外進出の加速に伴って「少子化が避けられない中、日本が社会や経済を維持するにはグローバル化が不可欠。八戸で働く外国人を教育機関として育て、地域に貢献したい」と話した。(若松清巳)